

林業技術センター  
普及班便り  
(第2回目)

# あなたの山つくりを応援する 林業普及「経営の豆知識その1」

森林所有者の大半は、今後の山の管理や経営などに心配や不安を抱えておられますが、森林経営の基礎は山つくりであり、山つくりは文字どおり百年の計である。このため、中・長期の将来を見据えた経営計画作りと経営の基礎となる知識や技術を身につけることが重要と思われまます。今回は経営を見直し、計画作りに必要なことについて説明します。

## 一 森林経営の基本

森林を経営して行く上で重要なことは、森林管理に必要な3本柱の内容を知ることです。

- ア 森林の面積等はどれだけあるか
- ①人工林・天然林別や樹種別、針葉樹・広葉樹別内訳面積など
- ②森林の林齢
- ③森林の蓄積

イ どこ(場所)にあるか  
隣の所有者との境界は  
経営の基本は管理することであり、自分が所有する森林の内容を把握することが第一歩です。

## 二 森林資源情報の集め方

- ア 振興局から入手できる資料  
森林簿、森林基本図、森林・林業の動向、農林業センサス、林業統計書など
- イ 市町村から入手できる資料  
土地利用面積・産業動向市町村勢要覧など

## 三 森林経営方式

森林経営方式は、林木が伐採利用できる段階(成熟林齢Ⅱ伐期)に達した森林を皆伐して収穫するか、それとも間伐等を繰り返し少しずつ収穫を行う方法の、皆伐経営と非皆伐経営の2つに大別されます。

どちらの場合も林分ごとに伐期を決めて経営管理することが重要です。

## 四 経営計画

経営を行うには、所有面積にかかわらず経営計画の作成が不可欠です。経営計画は、今後の森林施業についての計画が中心となりますので森林施業計画を作成することが必要です。

## 五 山つくりを応援する林業普及

皆様方の地域で普及指導員が「林家ファイル」や林分の健康診断を行う「森林カルテ」作成の普及活動しております。



## Ⅱ 新しい林業情報

消極的長伐期から積極的長伐期へ(大貫肇・田口護 日本の林業・木材産業の復活を考える会)  
今後の森林経営の参考になると思われますので林業誌「現代林業」2007の8月号のレポート内容を簡単に紹介します。

## ◆国産材復活の胎動

最近、木材関係者が「国産材復活は今がチャンス、今が勝負の時」と異口同音に言うが、これは、中国、インド、中近東などの木材需要拡大とロシアの原木輸出抑制の動きや集成材へのスギの急激な

利用増加が要因である。

## ◆儲かる林業経営像の呈示

経営意欲向上には、森林の在るべき姿等「儲かる林業経営像」の呈示が必要であることから長伐期施業と通常伐期施業の比較を行った。

◆長伐期(514万円)が通常伐期(228万円)の2.3倍の収入が可能。

## □考察

今回の比較は北関東の例ですが、本県でも長伐期施業が「儲かる林業」の呈示になるか検討したいと思います。

## 林業技術センター 普及班

